



2002年9月10日 社団法人 長崎青年協会会報 273号

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

# 社団 法人 長崎青年協会

長崎青年協会憲章

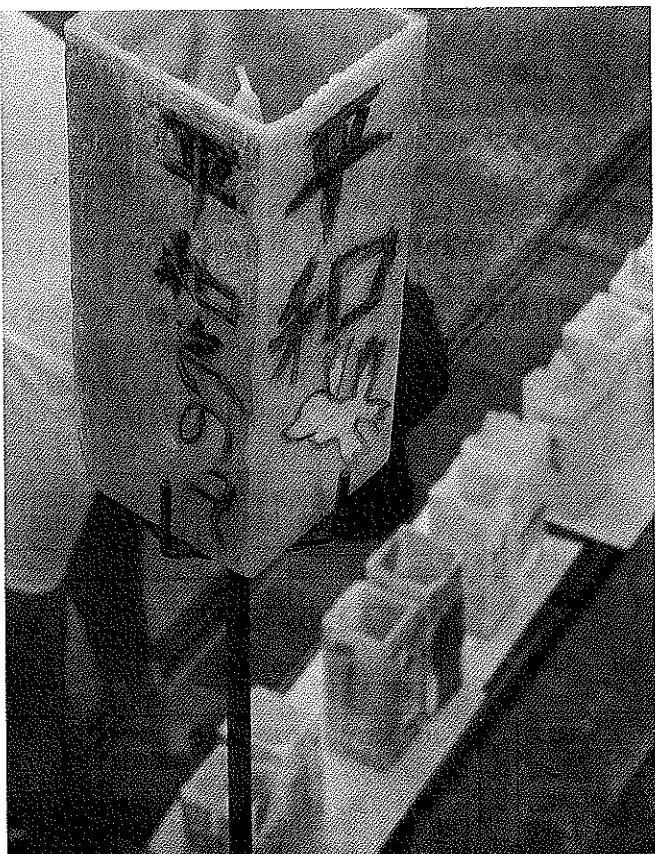
我々は会員の团结と  
相互扶助の精神の基に

自己の建設と

会員の親睦を図り

もつて地域社会の発展に  
寄与する事を目的とする

## スローガン 「スクラム！」



平和の灯

### 今月の行事予定

- 5日(木) 理事会 17日(火) 理事会 24日(火) 定時例会(ブリックホール)  
28・29日(土・日) おくんち広場設営／10月4日(金) 理事会  
10月6日(日) NYAおくんち親睦祭 10月7~9日(月~水) NYAおくんち広場

今月度事務局清掃担当委員会

総務例会委員会

今月の二次懇親会担当委員会

役 員

2002

9

～出欠の返事は確実にしよう～

# ●8月度例会●



## 会長挨拶

夏の終わりを告げるよう心地よい風が暑かったあの日のことを「いい想い出」として感じさせてくれる今日この頃です。

さて、先日(8月24日・25日)行われました全体研修では、アサヒビール株式会社 長崎支店長 若山様より「アサヒビールの企業戦略」という演題でご講演をいただきました。急成長の前には苦難の時代という前提がありそしてそのチャンスに対して「我今何をなすべきや」「我今如何にあるべきや」という本質を求めた結果が現在の成果であると感じました。ご講演ありがとうございました。また、長崎県警 浜元様のご指導のもと行われました「安全運転教習」では「再認識」「再確認」をする上で大変ためになりました。

一日目の懇親会におきましては、協会活動について熱く語り合ったかと思います。我々はお互いを理解する上で多く語り合うことが大切です。そして「友」を見出すこともそこからが始まりです。

さて、10月には青年協会の一大事業であります「おくんち事業」が控えております。たいへんなのは百も承知。

今年もまた皆で力を合わせて我々一人一人がまた一歩前進するために「スクラム!」を組みましょう。

## ～講師講演の内容～



『アサヒビールの企業戦略』「スーパードライはなぜ成功したのか」「今後どのような戦略で生き残っていくか」という題目で、「'87年にスーパードライを発売されるまでの苦難な日々からのお話を頂いた。

山登りが好きで1973年日が昇るアサヒに就職され、倉庫勤務を4年間経験、その時に30年近く勤務していた方のお見舞いに行つたところ、ライバル会社のキリンビールを愛飲されていたことにショックを受け営業職へ異動願いを。京都・西東京・東大阪・新宿の各支店を歴任され名古屋の中部広域流通を経て、3年前に長崎支店長に着任された。スーパードライが発売されるまで売れる商品がなく、売れない・お金(経費)もないの、ないないづくりであったが体力だけはあったためジャンバー作戦を展開。他社の自販機まで掃除しても注文をもらえないし、お得意様を接待してライトパンに寝泊りすることもよくあったそうだ。'85に10%を割るシェアとなり業界第3位のサントリーに追いつかれそうになり、「来年は逆転だ」とまで言われ商品力も根拠もなかったが「今に見ていろ!」という気持ちで一杯になったと言う。そして'87年に「飲むほどにドライ、辛口生」というキャッチフレーズで「アサヒスーパードライ」が登場。9.4%まで落ち込んでいたシェアがなんと45.6%まで躍進した。当時何もかも全てが、味方した現況により一気に看板商品にまで成長をとげた。しかし「お願いします」から「申し訳ございません」というまったく逆転した現況で営業がまったくできなかつたつけが早々に表れてきた。当然他社も新商品を出したりで、停滞期をむかえた。そこで原点に戻り「お客様第一主義」を再確認と同時に「スーパードライ」一本に絞り、品質を重視した結果再び右肩上がりになり'98年にはビールのシェアにおいてキリンビールを抜きトップの座に。さらに今後は総合種類化を図りニーズを高めるために発泡酒・ウィスキー・焼酎・ワイン等を販売したり、海外進出世界40ヶ国以上で販売の拡大を図っている。

質疑応答により、クレームについては何をおいても対処し、あらゆる可能性で事前に分析をしている等大企業のあり方を学ぶことができた。本当に有意義な講演であった。

## ◀ 全体研修1日目・ミニ例会の模様 ▶

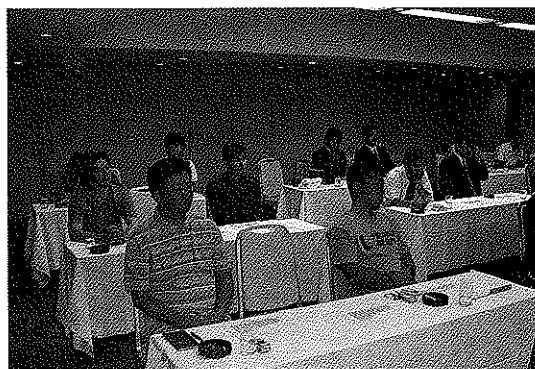
去る8月24日・25日、長崎ホテル清風に於いて全体研修が行われた。担当委員会が待つ中、受付開始の18時から続々と集合し、19時のミニ例会開始時には20名の参加者で賑わいをみせていた。片岡義勝君の司会により憲章唱和から会長挨拶・役員報告・委員会報告と進み、誕生者の祝いで終了した。5分間の休憩の後、酒井真君により、いよいよ今研修1日目の目玉である外部講師 アサヒビール株式会社 長崎支店長の若山治人様が紹介された。



### 『アサヒビールの企業戦略』「スーパードライ

ライはなぜ成功したのか」「今後アサヒビールはどういった戦略で生き残っていくのか」という内容で急成長の前の苦難の時代を乗り越えていった実話をおもしろおかしく講演を頂き、予定時間を越える熱弁をされ、また会員も皆聴き入っていた(前述)。

講演後協会会員らしい、客観的にまた戦略的な鋭い質問がされ、ていねいにお答え頂いた。久しぶりに「あっという間」の時間を過ごした会員であった。講師退場後場所を移し、懇親会へと進んだ。



### 出席率(8月度)

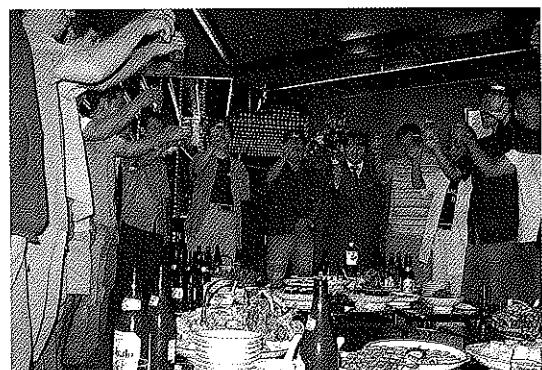
役員・監事		総務例会		広 報		研修開発		交 流		地域社会		合 計	
9/10	90%	3/8	37%	1/11	9%	4/9	44%	6/12	50%	5/12	41%	28/62	45%

## ◀ 懇親会の模様 ▶

講師講演終了後、11階ラウンジへ場所を移動し懇親会開始。長崎港を眼下に見下ろし、ゆったりとした雰囲気の中で松島監事による乾杯。講師としておいでいただいた若山氏、高橋氏にも参加していただき、晩秋の美味しいビールを皆と語らしながら味わっていた。



「アサヒ本生」も宜しく！



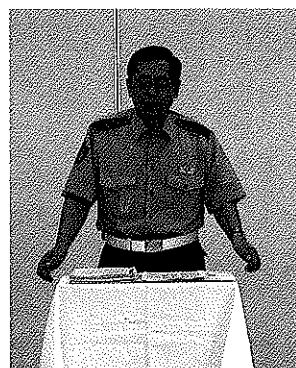
もちろんビールは「辛口生、アサヒスーパードライ」

また、ビールについて奥深く聞き入っている会員も多く、普段何気なく飲んでいるビールも、この日ばかりは一段と噛締めながら味わったのではなかろうか・・・ん～～うまっ！！

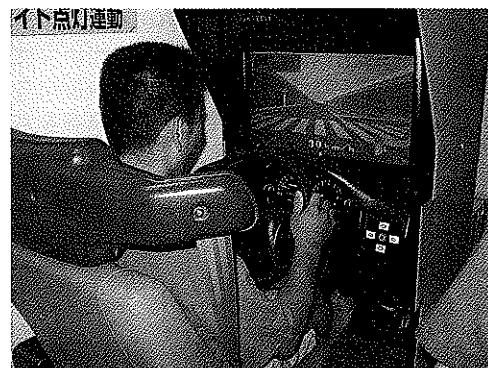
## ◀ 全体研修2日目の模様 ▶

8月25日(日) 前日の宴の疲れをみせる人・そうでない人が朝食後、続々と研修会場へ集まってきた。

9時より長崎県警察本部交通部企画課 安全教育係長 警部補 浜元隆夫様の交通安全運転講習とセイフティキャッチ号の中での実地講習が始まった。まず最初に長崎における交通死亡事故件数と交通事故の件数が数字で示された。交通事故死者において、長崎は連続最低人數という事で優秀だが交通事故自体は増加しているとの事。又シートベルト着用率も全国で上位にきているが、飲酒運転の割合も上位を占めているとの事で本当に運転者のモラルがあるのかないのか分からないと話があった。並行してセイフティキャッチ号の中では2人1組で車の中に入り、モニターを見ながらの運転講習を受けた。普段運転している者ばかりなので簡単だと多寡をくくっていたが、講習の結果が意外と悪く慣れの運転は怖いものだと痛感させられた。研修会場では休憩の間、個人個人運転や違反に対する質問をざくばらんにしていた。最後に皆さんに覚えて頂きたい。安全とは何か?又危険とは何か?それは安全とは危険でない状態。危険とは危ない事だそうだ。これを踏まえて運転というのは本来危険な行為である事を自覚して欲しい。又危険を予測して運転している人は少ないので、運転する時は歩行者優先という事も覚えておいて欲しい。自分自身大変になる研修でした。



浜元警部補



実際の運転より難しかった



真剣にお話を聞く会員

## おくんち親睦祭に向けて

おくんち本番の前日10月6日「おくんち前夜祭」改め「おくんち親睦祭」を開催いたします。今年も、なかなかおくんちを体験できない障害のある子供たちや青少年育成事業に参加してくれた子供たち、そして会員家族を招待し十善寺の龍踊りを観たり、ゲームを楽しみ少しでもおくんちの雰囲気を味わっていたこうと企画しています。昨年単なるおくんちの前日のお祭りと違った捉えかたをしたこともあり、前段にあるように社会に貢献している事業であることを強調するため「おくんち親睦祭」と名称を変更しています。

この親睦祭は青年協会の事業の中でも意義ある「協会らしい」事業です。おくんち広場本番は当然のことながら、親睦祭への多くの参加をお願いいたします。ご家族の方もお待ちしております。

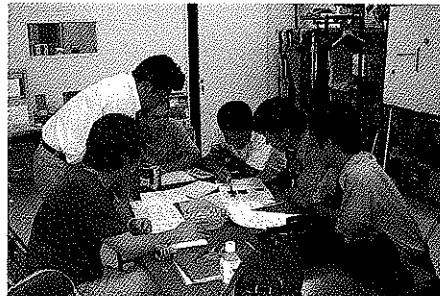
担当 地域社会委員会

# おくんち事業、間近に迫る！

企画推進室室長 前田哲也

この広報誌が届く頃にはいよいよ長崎の伝統行事くんちまで1ヶ月を切った時期にきています。

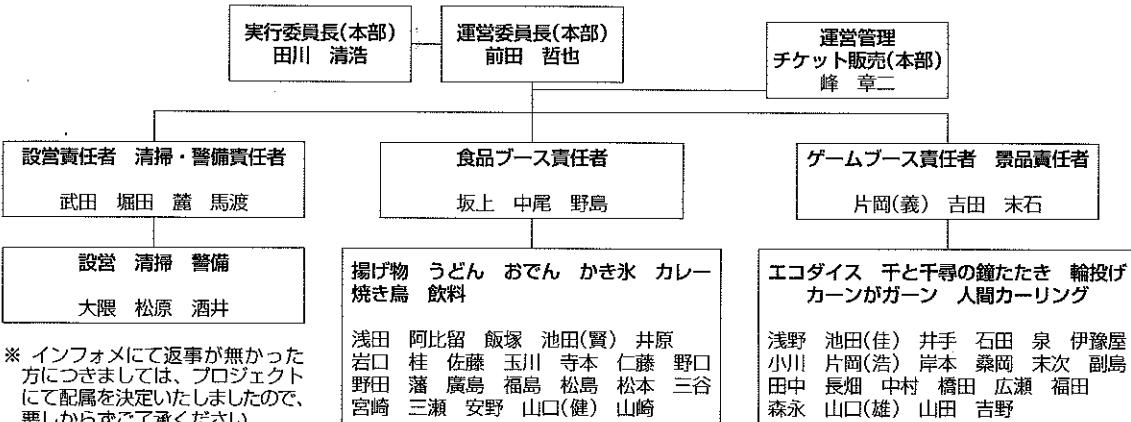
我々、長崎青年協会のくんち事業も、聞くところによるともう30年近くを迎えるとのこと。現在の江戸町公園でのくんち事業も長い年数を数えます。「青年協会=くんち事業」と言っても過言ではなく、協会の現役・OBなら多くの人が、入会する際には、「協会ってなんばするところ？」の問い合わせに「おくんちの期間中、自分達でおくんち広場っていうとばすっとさ！」という答えが返ってきたのを覚えてはいないだろうか。私事だが自分が入会した年、初めて参加したくんち事業では、公園に行くなり、「はい、これば着てお化け屋敷に入って」と汗でぐしゅ



ぐしゅになった黒のどん帳の幕に使うような布切れとおばけのマスクを渡されたことを記憶している。何もわからずスタッフとして入ったのはいいが、暑いし、くさいし、交替はこないで、いやでいやでたまらなかつたことを覚えています。しかしこれも何年かたつといい思い出であり、やはり会場で子供達が喜んで走り回る姿をみると、設営時のしんどさなんかも吹き飛んで頑張れてよかったと思うものです。

今年は担当委員会をあえて設けていません。これは田川会長のおくんち事業の重みを考え、全体事業としての位置付け、みんなで頑張ろうという思いの現れです。どうかみなさん、今年は7、8、9と3日間、平日開催というきびしい日程ですが出来るかぎり、出るのがむずかしいという人も1時間でも2時間でも時間をつくって広場に顔をだして汗を流して下さい。お願ひします。

事業内容についてはプロジェクトのなかで企画を練りました。今年は「自分達がおくんち事業になんで取り組んでいるのか？」という原点の意識を再確認するため、アンケートをとったり、6月の例会において「Mr.おくんち広場・円能寺OB（勝手に名づけました）」にも話しをして頂き、まず事業に対する意識の高揚を図り中身についてはプロジェクトを何度も行い、協会の現状も考え企画しています。組織図については以下のように考えています。



「ちいさな子供からお年よりまで楽しめる広場。子供を連れたお父さん、お母さんがちょっと休める、安心して子供を遊ばせることができる広場」を目指し頑張りたいと思っています。

また、今年室長として取り組むにあたりもうひとつ実現したいことがあります。それは、「会員自身が楽しめる事業であり、家族や親戚の人に来てもらって自分達も広場やおくんちを楽しむ」ということです。そのためには繰り返しになりますが、会員全員の協力が不可欠です。忙しいとは思いますが、それぞれが声をかけあってしっかりとスクラムを組みましょう！

**もりあげよう伝統あるおくんち、今年のテーマは「スマイル・スマイル・スマイル！」**

## ～35周年プロジェクト経過報告～

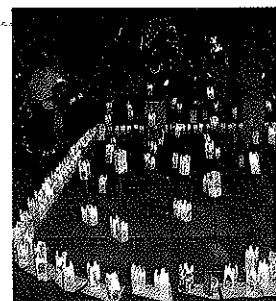
社団法人 長崎青年協会が平成15年度に創立35年を迎えるにあたり、35周年の年に青年協会がどうあるべきかを考え、方向性を今年度中につけるため「35周年企画推進室」が作られた。

年度当初は、理事と副理事の2人で委員会を開催していたが、なにせ2人の浅知恵。ある程度話しが見えた時点で「プロジェクトを組んでは」との提案を有り難く受け止め、プロジェクト員を募集。心意気のある方々に手を上げていただき現在、田川会長・寺本、吉田両副会長・松島、井手両監事・野口君・桂君・酒井君・浅田君・小川君・副島君の11名プラス担当理事・副理事の13名でスクラムを組んでおります。プロジェクトでは、さすがに自ら手を上げた方たちばかりで活発な意見が飛び交っており、さすがに気持ちが熱いなど感心するばかりです。現段階のプロジェクト進行状況ですが、35周年に対するコンセプトも決定し、気が早いのですが早く次年度になって素晴らしい35周年にするんだという話までになっています。今回プロジェクト員の方は敢えて理事者とおくんちプロジェクトメンバーになられている方は外させていただいていますが、自分の手で35周年を作っていくたいと思っている方また、青年協会をこよなく愛する方、まだ間に合いますのでプロジェクトに遊びに来て下さい。お待ちしております。

報告 35周年記念企画推進室理事 三瀬健司

## 平和の灯事業を終えて

先日、平和の灯事業の反省会が行われた。その中で、良否あわせ、来年につながる、的確な意見が出ていた。実行委員会形式で行われるようになってから、8回目になるこの事業だが、今後もより良い事業にする為には反省会の重要性を感じた。しかしこの事業を担当する前は、長崎において平和といえば、戦争、原爆、悲惨、こんなキーワードしか出てこなかつたが、子供たちと、楽しくキャンドルを作りながら、もっと身近な平和を感じた。子供たちにはこの事業を通して、受身の平和学習ではなく、キャンドル作りを体験する事により、自分たちで創出する平和を体験した事だろう。平和の対比で悲惨さも必要ではあるが、平和=楽しさ=美しさ、そして協調性や思いやりの気持ちを持ってもらえたたらと感じた。



報告 直前会長 野島徹也

## 住基ネット運用監視委員に任命

この度、国からの指令のもと、各地方自治体で管理・運営がなされるようになった「住民基本台帳ネットワークシステム（住基ネット）」の管理及び運営監視委員として長崎市より（社）長崎青年協会の田川会長が任命されました。（8月30日付）

田川会長談「現在、指摘を受けている部分もありますが、我々一人一人の人格を守る上で大切な役割だと感じておりますので、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。」



任命された5委員（右が田川会長）

## 2003長崎帆船まつりについての報告

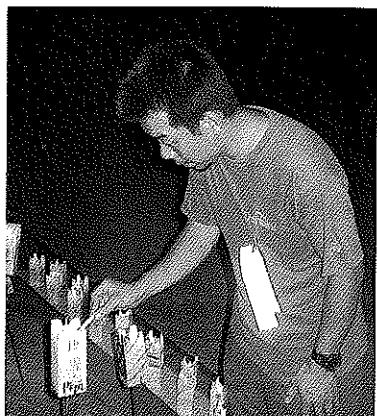
8月28日、「2003長崎帆船まつり」第1回実行委員会が開催され、長崎青年協会からは吉田副会長の代理で私、井手が出席してきました。

内容としては、「規約改正」「役員改選」「2003長崎帆船まつり事業計画」でありましたが、まだ1回目の委員会、且つ、来年4月に開かれる事業ということでもあり、私も含め、他の参加者も正直なところ実感がわかないようであるとの同時に、これからスタートすることに興奮を覚えるようでもありました。今回は「顔合わせ」と「事業計画の説明」が主でしたが、以後「2003長崎帆船まつり」が開催されるまで何度も実行委員会は行われ、詳細の部分に至るまで議論されていくでしょう。

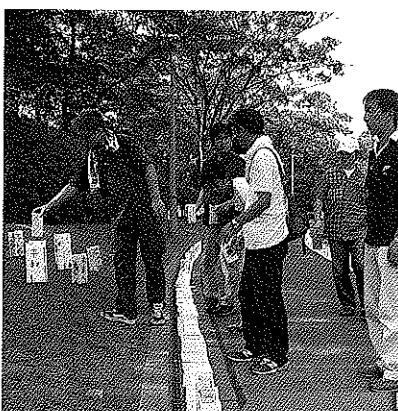


熱弁の井手監事

## ～アルバムのページ～



平和を願いながら



一つ一つ大事に



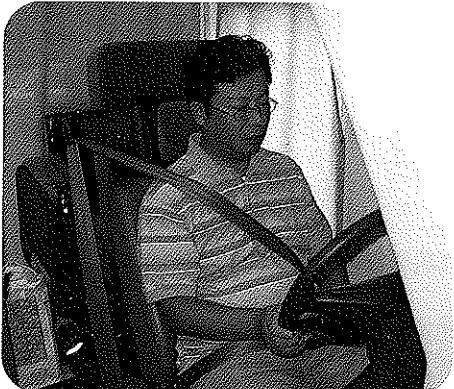
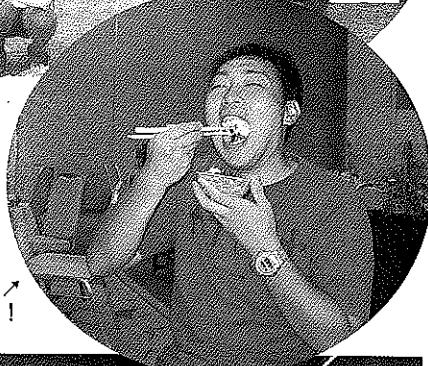
御同行戴いたアサヒビール株長崎支店の高橋課長



やっぱり日本人は日本茶と米ですね！



片岡(義)君もなぜかネジが切れてしまいました



トラックドライバー？



全体研修の担当委員会十1(プラスワン)



たまには寝ぼうさせて下さい

## 今月の誕生者

☆石田 則広君	昭和40年9月2日生(平成4年1月入会・在籍10年)37歳
☆寺本 正弘君	昭和37年9月17日生(平成4年6月入会・在籍10年)40歳
☆吉田 浩文君	昭和39年9月11日生(平成9年2月入会・在籍5年)38歳
☆坂上 隆弘君	昭和47年9月24日生(平成9年4月入会・在籍5年)30歳
☆麓 浩二君	昭和44年9月15日生(平成9年8月入会・在籍5年)33歳
☆伊豫屋 貴俊君	昭和38年9月26日生(平成9年12月入会・在籍5年)39歳
☆岩口 信美君	昭和40年9月1日生(平成11年9月入会・在籍3年)37歳
☆長畠 大輔君	昭和50年9月17日生(平成12年1月入会・在籍2年)27歳

## NYAメル友俱楽部懇親会

去る8月10日、割烹大判にて久しぶりのメル友くらぶ懇親会を行いました。まずは勉強(?)と言う事で、はじめにホームページ自身で運営している廣島君、原O.B., 城谷O.B., 棚尾O.B.よりそれぞれの体験談をうかがい、作成のポイントや管理の難しい点などを解りやすく説明していただきました。趣味のHPや、お仕事に関するHPなど色々ですが、やはり1番大変で大事なのは「更新をマメにする事」という意見で一致していた様に思います。

さて、しっかりと勉強をした後は、楽しい楽しい懇親会でございます。やはりココが本番だったらしく、大勢のメンバーがあちらこちらテーブルを動きまわって年代の差など気にせず色々な話に花をさかせておりました。こういう機会は(きちんとした勉強会も含めて)もっと増していきたいと思います。

昨今のB.B.社会の中で、青年協会、また各会員も何らかの形でこれらを上手く利用する術を学んでいかなくてはなりません。これからはそういう活動をもっと増やして行きたいと思っていますので、P.C.のメールアドレスをお持ちの方の入会を心よりお待ちしております。

メル友くらぶより。

委員会配属決定 7月入会の廣島康弘君は、地域社会委員会に配属されました(8月20日付)。

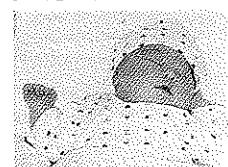
B  
A  
B  
Y  
誕  
生

### 交流委員会 末次成礼君

H14年6月13日 長女 祐子(ゆうこ)ちゃん 誕生

身長 50.5cm 体重 3,765g

父親からの一言 ~~~ 明るく、元気で優しい女の子になって下さい。



### 交流委員会 中村秀平君

H14年8月20日 長女 日南(ひな)ちゃん 誕生

身長 51.0cm 体重 3,408g

父親からの一言 ~~~ あたたかい元気な子になって下さい。



### 10月の行事予定 4日(金) 理事会 6日(日) おくんち親睦祭

7・8・9日(月・火・水) おくんち広場 15日(火) 理事会 21日(月) 臨時総会

### 10月度事務局清掃担当委員会 全員 二次懇親会担当委員会 役員

編集後記

去る9月1日長野県知事選挙が行われた。結果は、ご承知の通り、県議会の不信任案可決による『失職』した「脱ダム宣言」の前知事が圧勝した。当時、長野県議会は、「ダム建設は、長野県民の財産、生命を守るために絶対必要」と言っていたが本当にそれだけなのか。彼等は本当に県民を守るためにそう言っているのか?今回の出直し選挙の結果をみて疑問に感じる。そういうえば、長崎も長年モメ続けている石木ダム建設問題があることを思い出した。今後どう展開していくのだろう。

発行 社団法人長崎青年協会 会長・田川清浩 長崎市五島町2-14 長崎印刷ビル3階  
TEL 095-821-1625 FAX 095-823-7375

編集 広報委員会委員長・仁藤和彦 副委員長・三瀬健司 福田増幸 広瀬健司 岸本純孝

福島広之 中尾仁 岩口信美 桂雄剛 片岡浩一 橋田徳之

印刷 昭英印刷有限会社 長崎市平野町13-13 TEL 095-844-0231